

伊藤一彦への質問

I

質問Ⅱ 俵万智 十大口玲子

1 ご実家は葉屋さんだったと伺いました。そのお仕事を継ごうと思ったことは？

宮崎市の繁華街で両親が葉屋を営んでいました。小中学校の同級生は近所の商店街の子供たちが多かったです。いわば跡取りの息子連中で、私もその一人でした。高校に入ると化学部に入部し、将来は薬学部と想っていました。一年生の後半にはふとした切っ掛けで入部した新聞部が面白くなり、化学部へは行かなくなりました。そして、実家の葉屋を継ごうという気持ちは薄れてしまいました。長男の私でしたが、優

しかった両親は一言も後を継ぐようにと言ったことはなかったです。

2 少年時代のエピソードがありましたら。できれば、初恋の思い出なども。

少年時代、おとなしかったです。外遊びより、本を読む方が好きでした。学校の図書室や家の近くにあった県立図書館によく通いました。エピソードらしいエピソードはありませんね。ぼんやりした子供だったと思います。女子とは、小学や中学の時に話したことはほとんどないですね（笑）。初恋が生まれようがなかったです。

3 私（俵）は、早稲田大学に進学して下宿していた頃、家族の住む福井に対してホームシックを感じていたのですが、伊藤さんは大学時代に宮崎に対してどんな思いを抱いていましたか。

高校二年の時、全国高校新聞大会に参加したのが初めての上京でしたが、早稲田大学が会場でした。そして、高校の先輩が多く早稲田に進学していたこともあって、早稲田の文学部を志望しました。哲学科が希望でした。入学した後は、自分が思っていた以上にホームシックになったように思い